

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

平成 27 年 12 月 13 日

所属部局・職	霊長類研究所生態保全分野・修士課程学生
氏名	有賀菜津美

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本サンクチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 11 月 24 日 ~ 平成 27 年 11 月 27 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

2015 年 11 月 24 日から 4 日間にわたって熊本サンクチュアリで行われた動物福祉実習について報告する。実習では、各施設の見学、スズケン (ポノボ) の誕生日会準備、エンリッチメント道具の作成と評価をおこなった。

エンリッチメント道具の作成は 2 人 1 組の 3 チームで行った。5 時間の作成時間で、ポノボとチンパンジーの放飼場に設置し、行動調査をして、評価するという形だった。以前より、さまざまな動物園や勉強会などでエンリッチメント道具を見たり聞いたりしてきたが、実際に作成するのは動物園博物館実習以来 2 回目だった。また、今回は十分な時間が与えられ、自分たちで考えて作製してもよいということで、とても実践的な実習となった。よくあるフィーダーをただ仕掛けるのではなく、チャレンジの意味も込めた複雑なものを作りたいと考えた。そこで、今回は 2 階層のバズルフィーダーを作ることにした。名前は、「ころころ Soy ポール」とした (図 1)。上段のボックスには、穴の開いたカラーボールを入れ、それぞれのカラーボールの中に大豆やヒマワリの種子を入れた。メッシュに作成した三か所の穴から枝もしくは指を使ってカラーボールを転がすと、中から大豆などが落ち、下の筒へ落ちる。筒の下には、穴を開けており、さらに枝や指を使って外へ掻き出すという仕組みになっている。

最初にポノボの屋内展示場へ設置した。ポノボの道具使用についてあまり知らなかったが、個体によっては上手に枝をボックスに入れ、ボールを転がした。最も取り組んだ時間が長かったのはルーズだった。しかし、基本的に枝は使わず、指で上のボックスの穴から大豆を掻き出して食べていた。ポ

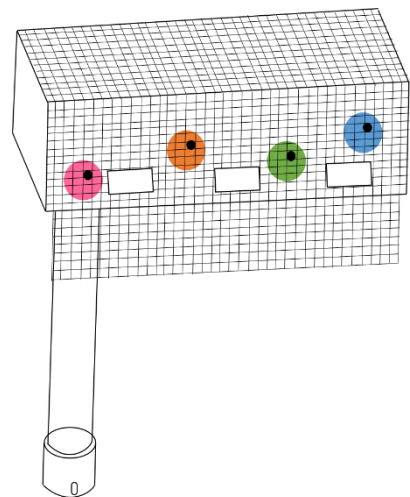


図 1. ころころ Soy ポール

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

ノボの平均取り組み時間は、1分47秒であった。ルイーズは、最大で1回の取り組みが14分10秒だった。3個体の総取り組み時間は、1時間2分38秒であり、1時間の観察中、誰も取り組んでいなかったのは、わずか11分58秒だった(図2)。

翌日はチンパンジーの屋外放飼場へ設置した。チンパンジーはボノボに比べ、野生での道具使用の報告も多く、ボノボより興味を持つと期待した。チンパンジーは、設置後9分ほどで取り組みを始めた。しかし、調査開始約14分後にサクラという個体が箱を叩き、歪めてしまった。かろうじて使用可能だったため観察は継続した。チンパンジーの平均取り組み時間は、2分31秒だった。チコ、サクラ、ヨシエは、よく取り組み、1回の取り組み時間が最も長かったのは、チコであり、25分33秒だった(図3)。また、1時間の観察中誰も取り組んでいなかったのは、わずか1分5秒だった。

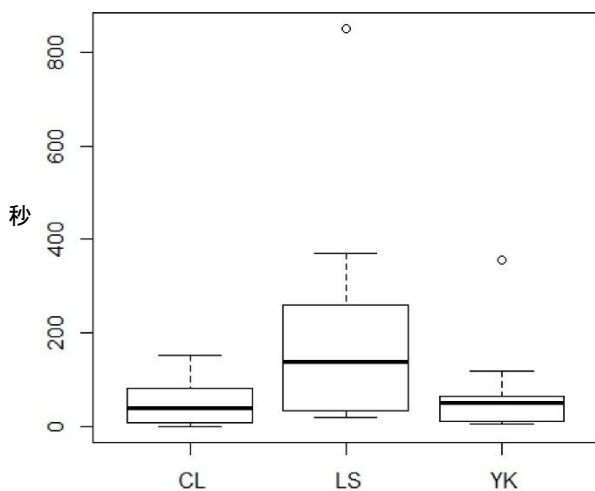


図2. ボノボの1回の取り組み時間

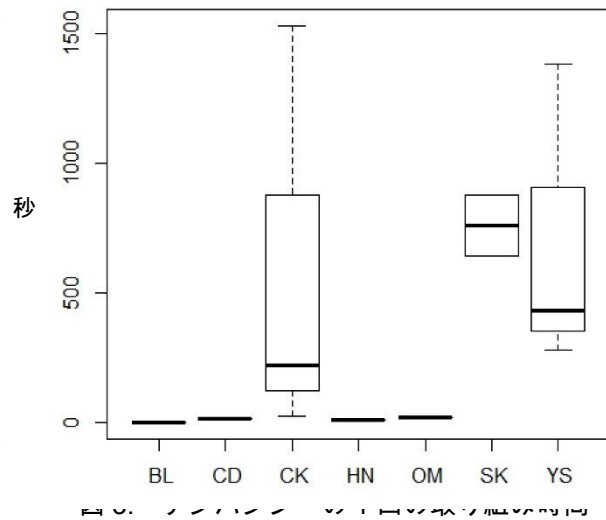
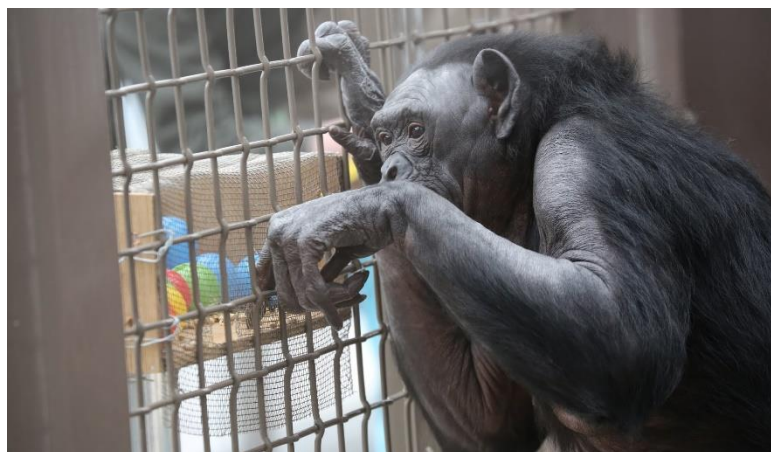


図3. チンパンジーの1回の取り組み時間

予想通りボノボの方が取り組み時間は短かったが、どちらの個体もよく取り組んだ。継続して置いた場合に誘因力が弱くなるのか、中身で反応は変わるのかなどは、観察していて気になった。また、今回の観察は1時間しかなかったが、彼らは食べ物なくなるまで根気強く続けるのか、飽きたら早々にやめてしまうのが気になった。

本格的なエンリッチメントの道具を作るのは初めてだったため、とても勉強になった。そして、実際に動物園で使うとしたら、洗いやすいことや設置のしやすさ、強度なども重要なポイントになってくると考えた。そういったことを踏まえるとまだまだ改善すべき点は多いが、ボノボもチンパンジーも積極的に取り組んでくれてよかったと思った。



道具ではなく、指を使って大豆を取り出すルイーズ (撮影: 山梨)

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

6. その他（特記事項など）

今回の出張を行うにあたり、熱心な指導を受け賜りました、熊本サンクチュアリのスタッフの方々に深く感謝いたします。本活動は、PWS より助成を得て、おこないました。ありがとうございました。